

(別表)

(氏名は名・姓の順に表記)

1. ガアファル・ムハンマド・エルハサン

Gaffar Mohammed Elhassan

(肩書) スーダン国軍 (S A F) 少将兼西部地域司令官

(生年月日) 1952年6月24日

(出生地) 不明

(別名) ガアファル・モハメッド・エルハサン (Gaffar Mohmed Elhassan)

(国籍) 不明

(旅券番号) 不明

(身分登録番号) 退役軍人身分登録カード4302

(住所) スーダン共和国オムドゥルマン (Omdurman)・エルワハ (El Waha)

(リスト掲載日) 2006年4月25日

(その他の情報) スーダン国軍から退役。インターポール・国連安全保障理事会特別手配ウェブリンク：

<https://www.interpol.int/en/notice/search/un/5282254>

(指定の根拠) 専門家パネルの報告において、ガアファル・ムハンマド・エルハサン少将は専門家パネルに対して、西部地域司令官在任中、ダルフルールにおけるすべての部隊への直接的な作戦指揮権 (主に戦術指揮) を有していたと述べた。同人は、2004年11月頃から2006年初めまで西部地域司令官の職にあった。パネルの情報によると、同人は、この職により、委員会の事前承認なくダルフルールへの軍用装備の移動を (ハルツームから) 要求し (2005年3月29日以降、) 許可し、国連安保理決議1591のpara7違反の責任を有した。同人自身、専門家パネルに対し2005年3月29日から2005年12月までの間、スーダンの他の地域からダルフルールへ航空機、航空機エンジン、その他の軍用装備を持ち込んだ旨認めたと述べた。例えば、同人は、専門家パネルに対し2005年9月18日から21日の間、Mi-24攻撃ヘリコプター2機をダルフルールに許可なく持ち込んだ旨伝えた。同人が西部地域司令官として、2005年7月23日、24日のアブ・ハムラ周辺地域及び2005年11月19日の西ダルフルール・ジャバル・ムーン地域への航空攻撃を許可したことについて、直接的な責任を有すると信じるに至る合理的な根拠もある。両作戦には、Mi-24攻撃ヘリコプターが関与しており、伝えられるところでは両作戦において射撃を行った。専門家パネルの報告では、同人自身が専門家パネルに対し西部地域司令官として、航空支援及び他の航空作戦の要請を承認した旨示唆した。(専門家パネル報告S/2006/65 para 266-269参照。) 同人は、

このような行為を通じて、国連安保理決議第1591号の関連規定に違反しており、したがって委員会により指定される制裁の対象とされるべき基準を満たしている。

2. ムーサ・ヒラール・アブダラ・アルナシーム

Musa Hilal Abdalla Alnsiem

(肩書) (a) アル・ワハ地区選出の元スーダン国民議会議員、(b) 元外務省特別顧問、(c) 北ダルフールにおけるマハミド族大部族長

(生年月日) (a) 1964年1月1日、(b) 1959年

(出生地) クトゥム (Kutum)

(別名) (a) (シェイク) ムーサ・ヒラール ((Sheikh) Musa Hilal)、(b) アブドゥ・アッラー (Abd Allah)、(c) アブダッラー (Abdallah)、(d) アルナシム (AlNasim)、(e) アル・ナシム (Al Nasim)、(f) アルナシーム (AlNaseem)、(g) アル・ナシーム (Al Naseem)、(h) アルナッシーム (AlNasseem)、(i) アル・ナッシーム (Al Nasseem)

(国籍) スーダン

(旅券番号) (a) 外交旅券番号D014433、2013年2月21日発行(2015年2月21日失効)、(b) 外交旅券番号D009889、2011年2月17日発行(2013年2月17日失効)

(身分登録番号) 国籍証明書A0680623

(住所) スーダン共和国カブカビーヤ (Kabkabiya)、スーダン共和国クトゥム (北ダルフールのカブカビーヤ及びクトゥム市に居住し、ハルツームに居住した経験あり)

(リスト掲載日) 2006年4月25日(2017年10月17日、2018年3月14日改訂)

(その他の情報) 写真はインターポール(国際警察刑事機構)・国連安全保障理事会特別手配者に含まれているものを利用可能。インターポール・国連安全保障理事会特別手配ウェブリンク：

<https://www.interpol.int/en/notice/search/un/5795065>

(指定の根拠) ヒューマン・ライツ・ウォッチからの報告は、同団体は、シェイク・ムーサ・ヒラール指揮下のムジャーヒディーン及び志願兵の活動が(北ダルフール)地域に展開し、その不可欠な要求を確保することを認めるよう「地区の治安部隊」に命令する旨の北ダルフールの地方政府事務所から入手した2004年2月13日付メモを保有しているとしている。2005年9月28日、400名のアラブ系民兵が、西ダルフールのアロ・シャロー (IDP キャンプを含む)、アコー、ゴズメナの村々を襲撃した。また、委員会は、同人がアロ・シャ

ロー国内避難民キャンプ襲撃の際現場にいたとも信じている。同人の子息はスーダン解放軍（S L A）によるシャレイア襲撃の際に殺害されたため、個人的な流血の争いに関与していた。同人は、大部族長として、これらの行為についての直接的な責任を有し、国際人権人道法違反及びその他の残虐行為についての責任を有すると信じるに足る合理的な根拠がある。

3. 削除

4. ジブリール・アブドゥルカリム・イブラヒム・マーヨ

Jibril Abdulkarim Ibrahim Mayu

（肩書）改革・開発国家運動（NMRD）野戦司令官

（生年月日）1967年1月1日

（出生地）北ダルフールのエル・ファーシル（El-Fasher）（北ダルフールのエル・ファーシル・ナイル地区（Nile District））

（別名）(a)ギブリール・アブドゥル・カリーム・バリー将軍（General Gibril Abdul Kareem Barey）、(b)「テク」（" Tek" ）、(c)ガブリール・アブドゥル・カリーム・バドリ（Gabril Abdul Kareem Badri）

（国籍）スーダン人（生まれ）

（旅券番号）不明

（身分登録番号）192-3238459-9、出生時の国籍証明書302581

（住所）スーダン共和国ティーナ（Tine）（チャドとの国境地帯のスーダン側にあるティーナに居住）

（リスト掲載日）2006年4月25日（2018年3月14日改訂）

（その他の情報）写真はインターポール（国際警察刑事機構）・国連安全保障理事会特別手配者に含まれているものを利用可能。インターポール・国連安全保障理事会特別手配ウェブリンク：

<https://www.interpol.int/en/notice/search/un/5795071>

（指定の根拠）マーヨは、2005年10月のダルフールにおけるアフリカ連合（AU）スーダン・ミッション（AMIS）要員誘拐についての責任を有している。同人は、公然とAMISの任務の妨害を試みている。例えば、2005年11月、ジャバル・ムーン地域においてAUのヘリコプターを撃墜すると脅迫した。このような行為を通じて、同人は、ダルフールの安定に対する脅威を構成し、国連安保理決議第1591号に明らかに違反しており、委員会により指定される制裁の対象とされるべき基準を満たしている。

5. アブデル・ラフマーン・ジュマ・バラカッラー

Abdel Rahman Juma Barkalla

（肩書）即応支援部隊（RSF）少将・西ダルフール司令官

(生年月日) 1969年1月1日

(出生地) 東ダルフールのバール・エララブ (Bahr Elarab)

(国籍) スーダン

(旅券番号) P07834700

(身分登録番号) スーダン番号21052659309

(住所) 不明

(リスト掲載日) 2024年11月8日

(その他の情報) インターポール・国連安全保障理事会特別手配ウェブリンク：
<https://www.interpol.int/en/How-we-work/Notices/View-UN-Notices-Individuals#2024-78021>

(指定の根拠) アブデル・ラフマーン・ジュマ・バラカッター (RSF少将・西ダルフール司令官) は、暴力行為や人権侵害を含め、ダルフールの平和、安全、安定を脅かす行動や政策に関与したため、指定される。ダルフールにおけるRSFの攻撃は、激しい戦闘、人道的アクセスの欠如、市民や人権活動家を標的とする暴力により、何十万人もの市民を危険にさらしてきた。2023年5月及び6月、西ダルフールのエル・ジュネイナでは、市民社会の代表が、RSFとその同盟民兵による標的を絞った脅迫と殺害に直面した。2023年8月4日、南ダルフールのニヤラで、RSFの制服を着た武装集団が人権活動家で弁護士のアフメド・モハメッド・アブドラとその同僚のアダム・オメルを拉致、殺害した。2023年6月14日に殺害された西ダルフール州知事のカミス・アバカールが最後に目撃されたのはバラカッターと一緒にいた (専門家パネル報告S/2024/65パラ71参照)。ソーシャルメディア上の動画では、アバカールがRSFの兵士によって建物に押し込められる様子が映し出され、その数時間後には、アバカールの遺体とその周りで喜ぶRSFの制服を着た兵士たちを映した2つ目の動画が公開された。2023年5月から11月にかけて、RSFとその同盟民兵は、西ダルフールのエル・ジュネイナとアルダマタの町で、少なくとも10回の市民に対する攻撃を行い、数千人を殺害し、13か所以上の集団墓地に埋めた。また、これらの攻撃の最中に女性や女児が強姦され、性的虐待を受けたと報告されている。

6. オスマン・ムハンマド・ハーミド・ムハンマド

Osman Mohamed Hamid Mohamed

(肩書) RSF少将・作戦部長

(生年月日) 1966年1月1日

(出生地) 南ダルフールのカジカリ (Kadiqali)

(国籍) スーダン

(旅券番号) 不明

(身分登録番号) スーダン番号 1 1 5 4 0 3 8 4 8 8 8

(住所) 不明

(リスト掲載日) 2 0 2 4 年 1 1 月 8 日

(その他の情報) インターポール・国連安全保障理事会特別手配ウェブリンク :
<https://www.interpol.int/en/How-we-work/Notices/View-UN-Notices-Individuals#2024-78033>

(指定の根拠) オスマン・ムハンマド・ハーミド・ムハンマド (RSF少将・作戦部長) は、暴力行為や人権侵害を含め、ダルフルの平和、安全、安定を脅かす行動や政策に関与したため、指定される。彼は大きな勝利の後、RSFを代表して声明を発表しており、RSFの作戦計画で重要な役割を担っている。ダルフルにおけるRSFの攻撃は、激しい戦闘、人道的アクセスの欠如、市民や人権活動家を標的とする暴力により、何十万人もの市民を危険にさらしてきた。2023年5月及び6月、西ダルフルのエル・ジュネイナでは、市民社会の代表が、RSFとその同盟民兵による標的を絞った脅迫と殺害に直面した。2023年8月4日、南ダルフルのニヤラで、RSFの制服を着た武装集団が人権活動家で弁護士のアフメド・モハメッド・アブドラとその同僚のアダム・オメルを拉致、殺害した。2023年6月14日、西ダルフル州知事のカミス・アバカールは、RSFの兵士に拘束された後、殺害された。ソーシャルメディア上の動画では、アバカールがRSFの兵士によって建物に押し込められる様子が映し出され、その数時間後には、アバカールの遺体とその周りで喜ぶRSFの制服を着た兵士たちを映した2つ目の動画が公開された。2023年5月から11月にかけて、RSFとその同盟民兵は、西ダルフルのエル・ジュネイナとアルダマタの町で、少なくとも10回の市民に対する攻撃を行い、数千人を殺害し、13か所以上の集団墓地に埋めた。また、これらの攻撃の最中に女性や女兒が強姦され、性的虐待を受けたと報告されている。

7. ゲド・ハムダン・アハメド

GEDO HAMDAN AHMED

国連参照番号 : SDi.007

役職 : 即応支援部隊 (RSF) 北ダルフル地区司令官

Commander for the North Darfur section of the Rapid Support Forces

別名 : アブ・ナシュク

Abu Nashuk

国籍 : スーダン

Sudan

別名：アル・ゼイル・サーレム

Al Zeir Salem

国籍：スーダン

Sudan

リスト掲載日：2026年2月24日

その他の情報：性別：男性